

2019年主要文献目録

(2019年刊行の文献を掲載対象としている)

* 国際法、国際私法の雑誌名は原則として法律編集者懇話会のものを使用した。略語表は『法律関係 8 学会共通会員名簿』又は『法律時報』91巻13号(2019年12月)を参照。

国際政治・外交史

著書

【一般】

秋山 信将、高橋 杉雄	「核の忘却」の終わり—核兵器復権の時代	勁草書房
蘭 信三、川喜田 敦子、松浦 雄介(編)	引揚・追放・残留—戦後国際民族移動の比較研究	名古屋大学出版会
有賀 貞	現代国際関係史—1945年から21世紀初頭まで	東京大学出版会
石黒 馨	グローバル政治経済のパズル: ゲーム理論で読み解く	勁草書房
石田 憲	戦後憲法を作った人々 日本とイタリアにおけるラディカルな民主主義	有志舎
岩崎 正洋(編著)	大統領制化の比較政治学	ミネルヴァ書房
岩下 明裕	世界はボーダーフル	北海道大学出版会
宇治 梓紗	環境条約交渉の政治学—なぜ水俣条約は合意に至ったのか	有斐閣
梅川 正美	昔話とアニメの中の政治学	成文堂
大井 赤玄	ハロルド・ラスキの政治学: 公共的知識人の政治参加とリベリズムの再定義	東京大学出版会
大賀 哲、蓮見 二郎、山中 亜紀(編)	共生社会の再構築I シティズンシップをめぐる包摂と分断	法律文化社
大賀 哲、仁平 典宏、山本 圭(編)	共生社会の再構築II デモクラシーと境界線の再定位	法律文化社
小山田 英治	開発と汚職—開発途上国の汚職・腐敗との闘いにおける新たな挑戦	明石書店
川名 晋史(編著)	共振する国際政治学と地域研究—基地、紛争、秩序	勁草書房
北岡 伸一	世界地図を読み直す—協力と均衡の地政学	新潮社
金 基成	持続可能な発展の政治学	三恵社
小泉 康一(編著)	「難民」をどう捉えるか—難民・強制移動研究の理論と方法	慶應義塾大学出版会
古賀 敬太	カール・シュミットとその時代	みすず書房
佐々山 泰弘	パックスアメリカーナのアキレス腱: グローバルな視点から見た米軍地位協定の比較研究	御茶の水書房
佐藤 幸男、森川 裕二、中山 賢司(編)	〈周縁〉からの平和学	昭和堂
佐渡友 哲	SDGs時代の平和学	法律文化社
島村 直幸	国際政治の〈変化〉を見る眼—理論・歴史・現状	晃洋書房
下谷内 奈緒	国際刑事裁判の政治学: 平和と正義をめぐるデレンマ	岩波書店
瀬川 高央	核軍縮の現代史: 北朝鮮・ウクライナ・イラン	吉川弘文館
ジャレド・ダイヤモンド(著), 小川 敏子、川上 純子(訳)	危機と人類(上)	日経BP

ジャレド・ダイヤモンド (著), 小川敏子、川上 純子 (訳)	危機と人類 (下)	日経BP
高橋 和夫	国際理解のために 改訂版	放送大学教育振興会
竹田いさみ	海の地政学 覇権をめぐる400年史	中公新書
田中(坂部) 有佳子	なぜ民主化が暴力を生むのか—紛争後の平和の条件	勁草書房
田村 哲樹 (編)	日常生活と政治—国家中心的政治像の再検討	岩波書店
田 仁揆	国連事務総長—世界で最も不可能な仕事	中央公論新社
戸田 真紀子、三上 貴教、勝間 靖 (編著)	改訂版 国際社会を学ぶ	晃洋書房
永井 史男、水島 治郎、品田 裕 (編)	政治学入門	ミネルヴァ書房
長崎 浩	政治の現象学あるいはアジテーターの遍歴史	世界書院
西谷 公明	ユーラシア・ダイナミズム—大陸の胎動を読み解く地政学	ミネルヴァ書房
長谷川 雄一、金子 芳樹 (編著)	現代の国際政治—変容するグローバル化と新たなパワーの台頭 第4版	ミネルヴァ書房
羽場 久美子 (編著)	21世紀、大転換期の国際社会—いま何が起きているのか?	法律文化社
平井 一臣、土肥 勲嗣 (編)	つながる政治学—12の問いから考える	法律文化社
レイ・フィスマン、ミリアム・A・ゴールドデン (著), 山形 浩生、守岡 桜 (訳)	コラプション—なぜ汚職は起こるのか	慶應義塾大学出版会
福井 英次郎 (編)	基礎ゼミ 政治学	世界思想社
福島 安紀子	地球社会と共生—新しい国際秩序と「地球共生」へのアプローチ	明石書店
グレン・D・ベイジ (著), 酒井 英一 (監訳), 岡本 三夫、大屋 モナ (訳)	殺戮なきグローバル政治学	ミネルヴァ書房
星野 昭吉 (編著)	グローバル危機政治秩序とガバナンスのダイナミクス	テイハン
星野 俊也、大槻 恒裕、村上 正直、大久保 邦彦 (編)	グローバリズムと公共政策の責任 第三巻 自由の共有と公共政策	大阪大学出版会
イシュトファン・ホント (著), 田中 秀夫、村井 明彦 (訳)	商業社会の政治学	昭和堂
ジョン・J・ミアシャイマー (著), 奥山 真司 (翻訳)	大国政治の悲劇 新装完全版	五月書房新社
宮脇 昇	国際関係の争点	志學社
森 彰夫	マルチラテラル平和・安全保障論—多国間・国際組織・地域共同体の時代へ	彩流社

【日本関係】

エズラ・F・ヴォーゲル (著), 益尾 知佐子 (翻訳)	日中関係史 1500年の交流から読むアジアの未来	日本経済新聞出版
大海渡 桂子	日本の東南アジア援助政策—日本型ODAの形成	慶應義塾大学出版会

川崎 剛	大戦略論：国際秩序をめぐる戦いと日本	勁草書房
岸 俊光	核武装と知識人—内閣調査室でつくられた非核政策	勁草書房
木下 真志	五五年体制と政権交代 政治学の深化に向けた一考察	旬報社
桐山 節子	沖縄の基地と軍用地料問題—地域を問う女性たち	有志舎
信夫 隆司	米軍基地権と日米密約—奄美・小笠原・沖縄返還を通して	岩波書店
清水 靖久	丸山真男と戦後民主主義	北海道大学出版会
高作 正博	米軍基地問題の基層と表層	関西大学出版部
高瀬 弘文	戦後日本の経済外交II —「近代を超える」時代の「日本イメージ」と「信頼」の確保	信山社
武田 康裕	日米同盟のコスト—自主防衛と自律の追求	垂紀書房
谷川 建司、須藤 遙子 (編訳)	対米従属の起源「1959年米機密文書」を読む	大月書店
中山 大将	国境は誰のためにある？—境界地域サハリン・樺太—	清水書院
名越 健郎	秘密資金の戦後政党史—米露公文書に刻まれた「依存」の系譜—	新潮選書
西山 太吉	記者と国家—西山太吉の遺言	岩波書店
藤本 一美	増補「解散」の政治学—戦後日本政治史	第三文明社
溝口 聡	アメリカ占領期の沖縄高等教育—文化冷戦時代の民主教育の光と影	吉田書店
村井 良太	佐藤栄作 戦後日本の政治指導者	中公新書
山本 章子	日米地位協定—在日米軍と「同盟」の70年	中公新書

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

石塚 迅	現代中国と立憲主義	東方書店
磯部 靖	中国 統治のジレンマ—中央・地方関係の変容と未完の再集権	慶應義塾大学出版会
内海愛子、中野晃一、李泳采、鄭栄桓	いま、朝鮮半島は何を問いかけるのか—民衆の平和と市民の役割・責任	彩流社
遠藤 誉	米中貿易戦争の裏側 東アジアの地殻変動を読み解く	毎日新聞出版
太田 満	中国・サハリン残留日本人の歴史と体験—北東アジアの過去と現在を次世代に伝えるために	明石書店
大西 康雄 (編)	習近平「新時代」の中国	アジア経済研究所
小笠原 欣幸	台湾総統選挙	晃洋書房
落合 雄彦 (編著)	アフリカ安全保障論入門	晃洋書房
小原 凡司、栗原 響子	アフター・シャープパワー—米中新冷戦の幕開け	東洋経済新報社
上 英明	外交と移民—冷戦下の米・キューバ関係	名古屋大学出版会
川上 桃子、松本 はる香 (編)	中台関係のダイナミズムと台湾：馬英九政権期の展開	アジア経済研究所
川島 真、遠藤 貢、高原 明生、松田 康博 (編)	中国の外交戦略と世界秩序	昭和堂
河村 有教 (編著)	台湾の海洋安全保障と制度的展開	晃洋書房
木村 朗	沖縄から問う東アジア共同体—「軍事のかなめ」から「平和のかなめ」へ	花伝社
国末 憲人	テロリストの誕生—イスラム過激派テロの虚像と実像	草思社
倉田 徹、倉田 明子 (編)	香港危機の深層「逃亡犯条例」改正問題と「一国二制度」のゆくえ	東京外国語大学出版会

黒田 彩加	イスラーム中道派の構想力: 現代エジプトの社会・政治変動のなかで	ナカニシヤ出版
濟藤 道彦	南シナ海問題総論	中央大学出版部
酒井 啓子 (編著)	現代中東の宗派問題—政治対立の「宗派化」と「新冷戦」	晃洋書房
清水 麗	台湾外交の形成—日華断交と中華民国からの転換	名古屋大学出版会
高岡 豊、溝淵正季 (編)	「アラブの春」以後のイスラーム主義運動	ミネルヴァ書房
崔 銀姫	「反日」と「反共」——戦後韓国におけるナショナリズム言説とその変容	明石書店
知花 いづみ、今泉 慎也	現代フィリピンの法と政治—再民主化後30年の軌跡	アジア経済研究所
趙 宏偉	中国外交論	明石書店
張 雪斌	日本と中国のパブリック・ディプロマシー—概念変容に伴う新たな競争	ミネルヴァ書房
中村 覚 (監修), 間 寧 (編著)	トルコ	ミネルヴァ書房
朴 一	20世紀東アジアのポリティカルエコノミー	晃洋書房
潘 沢泉 (著), 李 文哲 (訳)	国家による農民工社会政策調整の研究	朝日出版社
平川 均、真家 陽一、町田 一兵、石川 幸一 (編著)	一帯一路の政治経済学	文眞堂
広島市立大学広島平和研究所 (編)	アジアの平和と核—国際関係の中の核開発とガバナンス	共同通信社
テイラー・フレイヴェル (著), 松田 康博 (訳)	中国の領土紛争: 武力行使と妥協の論理	勁草書房
房 迪	日中国交正常化期の尖閣諸島・釣魚島問題—衝突を回避した領土問題処理の構造	花伝社
細野 ゆり	フィリピンの保健行政改革—新制度論のアプローチから	国際書院
益尾 知佐子	中国の行動原理 国内潮流が決める国際関係	中公新書
松下 洸	ラテンアメリカ研究入門—〈抵抗するグローバル・サウス〉のアジェンダ	法律文化社
松村 昌廣	日米同盟と朝鮮半島 国際政治における格闘場	芦書房
峯 陽一	2100年の世界地図—アフラシアの時代	岩波新書
宮田 律	黒い同盟 米国、サウジアラビア、イスラエル	平凡社新書
宮脇 聡史	フィリピン・カトリック教会の政治関与—国民を監督する「公共宗教」	大阪大学出版会
山田 信行	グローバル化と社会運動	東信堂

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

秋野 有紀	文化国家と「文化的生存配慮」—ドイツにおける文化政策の理論的基盤とミュージアムの役割	美学出版
宇野 重規	政治哲学へ 増補新装版—現代フランスとの対話	東京大学出版会
大木 毅	独ソ戦—絶滅戦争の惨禍	
岡本 奈穂子	ドイツ移民・統合政策	成文堂
岡山 裕、西山 隆行 (編)	アメリカの政治	弘文堂
小川 有美、宮本 太郎、水島 治郎、網谷 龍介、杉田 敦	社会のためのデモクラシー—ヨーロッパの社会民主主義と福祉国家	彩流社
金成 隆一	ルポ トランプ王国2	岩波新書

スティーブン・カルバーク (著), 師井 勇一 (訳)	アメリカ民主主義の精神—マックス・ウェーバーの政治文化分析	法律文化社
菅 英輝	冷戦期アメリカのアジア政策—「自由主義的国際秩序」の変容と「日米協力」	晃洋書房
木村 汎	対口交渉学 歴史・比較・展望	藤原書店
久保 慶一	争われる正義—旧ユーゴ地域の政党政治と移行期正義	有斐閣
ハンス・クンドナニ (著), 中村登 志哉 (訳)	ドイツ・パワーの逆説	一藝社
ジャスティン・ゲスト (著), 吉田 徹、西山 隆行、石神 圭子、河村 真実 (訳)	新たなマイノリティの誕生—声を奪われた白人労働者たち	弘文堂
小泉 悠	「帝国」ロシアの地政学 —「勢力圏」で読むユーラシア戦略	東京堂出版
小堀 眞裕	英国議会「自由な解散」神話—解釈主義政治学からの一元型議院内閣制論批判	晃洋書房
スティーブ・コール (著), 笠井 亮平 (訳)	シークレット・ウォーズ—アメリカ、アフガニスタン、パキスタン 三つ巴の諜報戦争(上)	白水社
スティーブ・コール (著), 笠井 亮平 (訳)	シークレット・ウォーズ—アメリカ、アフガニスタン、パキスタン 三つ巴の諜報戦争(下)	白水社
庄司 克宏	ブレグジット・パラドクス—欧州統合のゆくえ	岩波書店
高橋 慶吉	米国と戦後東アジア秩序—中国大国化構想の挫折	有斐閣
高橋 琢磨	トランプ後のアメリカ社会が見えるか—資本主義・新自由主義・民主主義	信山社
津崎 直人	ドイツの核保有問題	昭和堂
中野 耕太郎	20世紀アメリカの夢—世紀転換期から1970年代	岩波新書
アレックス・ナンズ (著), 藤澤 み どり、荒井 雅子、坂野 正明 (訳)	候補者ジェレミー・コービン—「反貧困」から首相への道	岩波書店
日野原由未	帝国の遺産としてのイギリス福祉国家と移民:脱国民国家化と新しい紐帯	ミネルヴァ書房
広瀬佳一 (編著)	現代ヨーロッパの安全保障—ポスト2014: パワーバランスの構図を読む	ミネルヴァ書房
ニール・ファーガソン (著), 村井 章子 (訳)	キッシンジャー 1923—1968 理想主義者 1	日経BP
ニール・ファーガソン (著), 村井 章子 (訳)	キッシンジャー 1923—1968 理想主義者 2	日経BP
前嶋 和弘、山脇 岳志、津山 恵 子 (編著)	現代アメリカ政治とメディア	東洋経済新報社
松尾秀哉、近藤康史、近藤正 基、溝口修平 (編)	教養としてのヨーロッパ政治	ミネルヴァ書房
松本 佐保	パチカンと国際政治 — 宗教と国際機構の交錯	千倉書房
宮島 喬、佐藤 成基 (編)	包摂・共生の政治か、排除の政治か—移民・難民と向き合うヨーロッパ	明石書店
宮田 由紀夫	アメリカにおける国家安全保障と大学	関西学院大学出版会

ヤン＝ヴェルナー・ミュラー（著）、板橋 拓己、田口 晃、五十嵐 美香、五十嵐 元道（訳）	試される民主主義—20世紀ヨーロッパの政治思想(上)	岩波書店
ヤン＝ヴェルナー・ミュラー（著）、板橋 拓己、田口 晃、五十嵐 美香、五十嵐 元道（訳）	試される民主主義—20世紀ヨーロッパの政治思想(下)	岩波書店
村田 晃嗣	大統領とハリウッド アメリカ政治と映画の百年	中公新書
山川 卓	マイノリティ保護のクロアチア政治史—ネーション化とヨーロッパ化の弁証法	晃洋書房
ポール・ラパチオリ（著）、鈴木 賢志（訳）	良いスウェーデン、悪いスウェーデン—ポスト真実の時代における国家ブランド戦争	新評論
渡邊 啓貴、上原 良子	フランスと世界	法律文化社
和田 龍太	中国をめぐる英米関係—イギリスによる航空機技術の対中輸出を中心に 1969-1975年	東海大学出版部
ワリン・クラウディア（著）、アップルヤード 和美（訳）	あなたの知らない政治家の世界：スウェーデンに学ぶ民主主義	新評論

【資料】

NPO法人「人間の安全保障」フォーラム（編）、高須 幸雄（編著）	全国データ SDGsと日本—誰も取り残されないための人間の安全保障指標	明石書店
佐道 明広、古川 浩司、小坂田 裕子、小山 佳枝	資料で読み解く国際関係	法律文化社
中国研究所（編）	中国年鑑 2019	明石書店
平和安全保障研究所（編集）、西原 正（監修）	アジアの安全保障2019-2020	朝雲新聞社
防衛研究所（編）	東アジア戦略概観2019	アーバン・コネクションズ
堀江 湛、加藤 秀治郎（編）	政治学小辞典	一藝社

論文（国際政治・外交史）

【一般】

青木 節子	宇宙ガバナンスの現在—課題と可能性	国際問題684
安倍 憲明	グローバル・ガバナンスにおける適者生存—経済協力開発機構（OECD）が国連との協力で測る機能進化	平和研究51
安藤 由香里	国際機構は「人の移動」にどのように取り組んできたのか	グローバル・ガバナンス5
石川 卓	「規範」による軍拡？	国際政治195
泉川 泰博	序論 関係回復の論理と実証	国際政治195
内田 孟男	国連と国連研究の課題と展望—個人的内省	国連研究20
永福 誠也	排他的経済水域における軍事活動—海洋制度の変遷を俯瞰して	防衛研究所紀要22（1）
江崎 智絵	非国家主体の対外関係とその規定要因	国際政治195

大西 健	平和作戦における強要 —国連コンゴ民主共和国ミッション (MONUC)	防衛研究所紀要22 (1)
大平 剛	SDGs にみる人間中心型開発思考からの脱却	国連研究20
岡村 善文	多国間外交の舞台としてのアフリカ	国際問題678
小野 圭司	人工知能 (AI) による軍の知的労働の代替 —AIと人間の共生の問題としての考察	防衛研究所紀要21 (2)
小野坂 元	戦間期上海租界労働問題におけるYWCAとILOの活動	国際政治195
梶浦 敏範	イノベーションを支えるサイバーセキュリティ	国際問題683
片田 さおり	インド太平洋構想と同地域の経済連携	国際問題687
川口 貴久	サイバー空間における「国家中心主義」の台頭	国際問題683
菊池 努	「インド太平洋」戦略の地政学—地域秩序の主体は誰か	国際問題687
ブレンドン・J・キャノン	自由で開かれたインド太平洋とリベラルな国際秩序—評論	国際問題687
坂根 徹	国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収集に焦点を当てた分析	国連研究20
笹本 潤	安全保障と人権における国連の意義と役割—平和への権利国連宣言の審議を通じて	国連研究20
笹本 潤	武力行使に対する人権アプローチの規制の可能性—平和への権利国連宣言の議論から	平和研究51
澤西 三貴子	国連の民主主義促進と国連民主主義基金—国連の内なる変容の一例	国連研究20
篠田 英朗	重層化する国際安全保障と国連平和活動の変容	国連研究20
神保 謙	インド太平洋の安全保障—戦略空間としての収斂	国際問題687
鈴木 一人	宇宙：国際政治の新たなフロンティア	国際政治684
角南 篤	宇宙政策：月探査とめぐる競争と新たな国際協力の可能性	国際問題684
高山 巖	再考・ウェストファリア	国際政治196
竹村 仁美	国際刑事裁判所への協力義務とめぐる法と政治	国際問題686
田所 昌幸	グローバルガバナンスにおけるG7とG20 回顧と展望	国際問題678
千々和 泰明	戦争終結の理論	国際政治195
寺谷 広司	人権一般条約の実効性と公正性—「建設的対話」の制度的条件に関する覚書	国際問題680
中谷 和弘	国際機関を巡る現代的位相	国際問題686
中西 杏実	軍事的観点からみた生物多様性保護—軍用地の管理と即応性・強靱性を巡る課題	防衛研究所紀要21 (2)
中西 崇文	データは「イノベーションの冬」を救えるか？—グローカライズする人工知能ビジネス	国際問題683
野口 元郎	移行期正義とその射程	国際問題679
福島 康仁	安全保障から見た宇宙—作戦支援から戦闘の領域へ	国際政治684
古谷 修一	国際刑事裁判の発展と直面する課題—四半世紀の挑戦に対する評価	国際問題680
武藤 亜子	変動する人道と開発の間—紛争中のシリア向け支援からの考察	国連研究20
望月 康恵	移行期正義と国際機関の役割	国際問題679
薬師寺 公夫	国際司法裁判所による人権保護	国際問題680
山下 光	平和維持活動の変化と関与の方向性—今後の議論のために	防衛研究所紀要22 (1)
横田 洋三	国際手続きによる人権保護の展開	国際問題680

【日本関係】

荒木 一郎	WTOの停滞と日本の対応	国際問題678
石原 敬浩	氷上シルクロード構想が国際安全保障環境に与える影響について—中国の北極進出に関する安全保障面からの考察	国際安全保障47 (1)
板山 真弓	「日米防衛協力のための指針」再考	年報政治学2019 (2)
井原 伸浩	福田赳夫の東南アジア政策における「心と心のふれあい」	グローバル・ガバナンス5
大庭 三枝	現代日本外交の三〇年	国際政治196
小田切 督剛	ヘイトスピーチをめぐる対話を深める日本・在日・韓国の高校生—地域に根差した平和学習交流20年	平和研究52
亀山 康子	パリ協定の課題と日本の対応	国際問題678
川島 真	序論 国際政治と中国	国際政治197
金 庚美	「グローバル化」と農業補助金—日本と韓国における農業補助金体制の変化の比較	国際関係論研究34
小谷 哲男	中国の「九つの門」とインド太平洋地域の海洋安全保障—日本の課題	国際問題687
財吉 拉胡	日本占領期の内モンゴル西部における医療衛生の近代化	アジア経済60 (2)
芝崎 厚	「ボブ・ディランという音」と平和学—ポール・ウィリアムズのディラン論を中心に	平和研究51
下平 拓哉	平和安全法制の成立と自衛隊の運用—「作戦術」からの分析を中心として	国際安全保障47 (2)
庄司 貴由	ソマリアPKO派遣構想の挫折	年報政治学2019 (2)
鈴木 一人	日本はリベラル国際秩序の担い手になりえるか	国際政治196
仙石 新	国際水路機関 (IHO) と地理的呼称—IHOにおける「日本海呼称問題」の経緯	国際問題686
高橋 杉雄	平和安全法制とグレーゾーン—評価と今後の課題	国際安全保障47 (2)
千々和 泰明	新冷戦期における基盤的防衛力構想批判のゆくえ—1980年代の日本の防衛論争	防衛研究所紀要21 (2)
千々和 泰明	序論—平和安全法制を検証する	国際安全保障47 (2)
張 騰飛	新聞に見る小泉首相の靖国神社参拝問題—『朝日新聞』と『産経新聞』の検証結果をもとに	アジア研究65 (4)
徳地 秀士	平和安全法制の論議を振り返る—平和安全法制の効用と今後の課題	国際安全保障47 (2)
中満 泉	多国間主義の現在と未来、日本への期待	国際問題678
中家 和宏	陸上自衛隊における「医学的な即応態勢 (MR)」の向上に関する提言—米陸軍の取り組みとの比較を通じて	防衛研究所紀要22 (1)
早丸 一真	一八六〇年代初頭における天朝の定制と外政機構の変動	国際政治197
福島 啓之	敗者の安心供与としての日本国憲法九条	国際政治195
福本 圭介	吐き気を生きること—大岡昇平の『野火』における戦争神経症	平和研究51
村野 将	平和安全法制後の朝鮮半島有事に備えて—日米韓協力の展望と課題	国際安全保障47 (2)
森下 丈二	国際捕鯨委員会 (IWC)と日本の脱退	国際問題686
八代 拓	日尼国交正常化における民間企業の役割	国際政治195
安田 光穂	「理想」と「現実」のはざま—石橋政嗣と日米軍事同盟	国際関係論研究34
山本 慎一	平和安全法制と国際平和協力—国際的潮流と国内法制度の比較分析	国際安全保障47 (2)
渡邊 浩崇	日本の宇宙政策の歴史と現状—自主路線と国際協力	国際問題684

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

青山 瑠妙	中国の対外政策の構造的変動—「富国外交」から「強国外交」へ	国際問題685
浅野 亮	グローバル戦略としての「一帯一路」—進化的プロセスとガバナンスの間で	グローバル・ガバナンス5

阿部 利洋	南アフリカの移行期正義とその後—和解・ローカルオーナーシップ・意図せざる結果	国際問題679
五十嵐 隆幸	一九六〇年代の「大陸反攻」と軍事戦略の転換	国際政治197
井上 浩子	東ティモールにおける移行期正義の20年	国際問題679
大串 和雄	ラテンアメリカにおける移行期正義の実践	国際問題679
奥田 英信	カンボジアのドル化の全体像—ドル化に一体化した金融発展	アジア研究65 (1)
金谷 美紗	エジプト・中国間の経済・軍事協力の進展	中東研究537
河合 玲佳	一九八〇年代日中関係再考	国際政治197
川瀬 剛志	韓国・放射性核種事件にみるWTO紛争解決手続きの限界—実効的な紛争解決を阻む不完全な二審制	国際問題686
間 寧	トルコの対中国経済関係—貿易不均衡と投資不足	中東研究537
北野 尚宏	中国のアフリカ進出の現状と課題—中国・アフリカ協力フォーラム (FOCAC)を中心に	国際問題682
金 成浩	北東アジア冷戦構造変容萌芽期に関する研究	国際政治195
熊倉 潤	中ソ対立化の中国少数民族幹部政策	国際政治197
小林 周	中東・アフリカからの非正規移動とEUの外交・安全保障政策	国際安全保障46 (4)
佐竹 知彦	中国の台頭と日米豪安全保障協力の強化—2000年代を中心に	防衛研究所紀要21 (2)
佐藤 悠子	「中国」の核開発	国際政治197
清水 学	アゼルバイジャン外交と非同盟主義—イランとイスラエルの狭間	中東レビュー6
徐 博晨	中国の「対外援助」と「貸し過ぎ」問題	国際政治197
平良 宗潤	体験的沖縄戦後史—生徒共に占領下の理不尽に抗したころ	平和研究52
高岡 豊	シリアの復興の現状と課題	中東研究536
高尾 賢一郎	サウジアラビア・中国関係の推移と様態—「サウジ・ビジョン2030」と「一帯一路」	中東研究537
高橋 知子	国際制度の交差に見る中国の国益	国際政治197
田中 公一朗	PLUR:カントの「思想」とEDM	平和研究51
千葉 悠志	中東における報道規制—近年の動向と統制方法の多様化に着目して	中東研究535
アレックス・ドゥバル	湾岸とアフリカの角—紅海周辺地域における戦略的争い	国際問題680
竇 碩華、松下 奈美子、佐藤 由利子	日本で就労した中国人元留学生の職場及び生活環境に関する研究—他国出身者との比較、理工系と文系の比較から	アジア研究65 (3)
徳川 信治	地域的人権条約における国際手続きの展開—欧州人権条約を中心に	国際問題680
墓田 桂	序論—安全保障の課題としての越境・難民問題	国際安全保障46 (4)
長谷川 貴陽史	平和と音—現代音楽からの若干の示唆	平和研究51
平野 克己	アフリカをどう理解し、どのように向かいあうべきか	国際問題682
福田 円	中国とカナダの国交正常化交渉	国際政治195
三上 陽一	イスラエルの対中国政策	中東研究537
三船 恵美	中国の外交政策におけるイランの位置づけ	中東研究537
八塚 正晃	中東地域への中国の軍事的関与	中東研究537
山本 達也	中東におけるインターネット・コントロールをめぐる状況の変化と今後の展望	中東研究535
湯浅 剛	ユーラシアに向けた中国アプローチ—その地政学的背景とポスト・ソ連諸国の対処	国際安全保障47 (1)
愈 敏浩	一九七八年尖閣漁船事件の研究	国際政治197
横尾 明彦	中国のGATT加入交渉と価格改革のリンケージ・ポリティクス	国際政治197

吉村 寿郎	アル=ジャジーラとアル=アラビヤ 対極的な報道をどう見るか—ハーショグジー氏殺害事件を例に	中東研究535
李 素軒	資本自由化以降の韓国における二つの外貨流動性危機の比較分析	アジア研究65 (1)
劉 仙姫	ベトナム戦争の展開と韓国	国際政治196
渡辺 志乃	「一帯一路」構想の変遷と実態	国際安全保障47 (1)
Arshin Adib-Moghaddam	「中東」の後で—地域再編のなかのトルコ・イラン関係	中東レビュー6

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

石田 周	EUにおける大銀行の経営戦略の変化と銀行制度の調和	日本EU学会年報39
菊池 茂雄	軍事作戦を巡るホワイトハウス＝国防省関係—オバマ政権およびトランプ政権の比較を中心に	防衛研究所紀要21 (2)
菊池 茂雄	米陸軍・マルチドメイン作戦 (MDO) コンセプト—「21世紀の諸兵科連合」と新たな戦い方の模索	防衛研究所紀要22 (1)
久保 文明	トランプ政権と中国	国際問題681
小森田 秋夫	ポーランドにおける『法の支配』の危機と欧州連合	日本EU学会年報39
鈴木 滋	トランプ政権の国境管理政策—安全保障上の観点から	国際安全保障46 (4)
鈴木 悠史	スウェーデン外交における自立性の模索	国際政治196
妹尾 哲志	在欧米軍削減問題と西ドイツ外交	国際政治196
田井中 雅人	米国の核言説と被ばくの不可視化—核大国とはヒバク国	平和研究52
田中 素香	ポピュリズムとEU	日本EU学会年報39
玉井 雅隆	「ウィーンの内」と「ウィーンの外」—OSCEにおける分断とその要因	グローバル・ガバナンス5
道満 治彦	EUにおける再生可能エネルギーの『優先接続』の発達	日本EU学会年報39
東野 篤子	ヨーロッパと一帯一路—脅威認識・落胆・期待の共存	国際安全保障47 (1)
堀井 里子	EU国境管理ガバナンスにおけるNGOの役割	国際政治196
三好 範英	越境者と流入と欧州ポピュリズムの台頭	国際安全保障46 (4)
八代 憲彦	イギリス・ポーランド間の冷戦と戦後処理—一九四五—一九四七	国際政治196
吉沢 晃	EU競争政策の正統性と消費者の役割	日本EU学会年報39
Patricia Flor	The EU as a Global Actor in a Changing World	日本EU学会年報39
Kazushige Kobayashi	More is Less? : An Institutional Realist Perspective on Competitive Regional Governance in Eurasia	グローバル・ガバナンス5
Fumiaki Kubo	Japan-US Alliance in the Face of Populism: The Vulnerability of an Alliance Based on Asymmetric Rights and Obligations	The Japanese Journal of American Studies, 30